

令和6年度 第2回長野市立図書館協議会開催概要

1 日 時 令和7年2月14日（金） 午前10時00分～午前11時55分

2 場 所 長野図書館3階視聴覚室

3 出席者

- (1) 委員9名 村田信行委員長、小池博明職務代理者、海沼桂子委員、勝田祝子委員、小林和子委員、小林孝子委員、向 紀男委員、西澤みち子委員、吉澤多恵子委員
- (2) 事務局10名 教育次長 前島 卓
家庭・地域学びの課長 藤原慶治、主事 徳武朋香
長野図書館長 本間尚治、主幹兼館長補佐 稲葉聡子、館長補佐 鈴木正文
係長 人見一由
南部図書館長 松本直樹、館長補佐 小林雅治、司書 芹沢広美

4 次 第

- (1) 開 会
(2) 教育次長あいさつ
(3) 委員長あいさつ
(4) 協議事項
ア 令和6年度の主な事業実績について
イ 令和7年度の主要事業計画（案）について
ウ その他
(5) その他
(6) 閉 会

5 議事内容

(1) 開 会 <開会のことば>

(2) 教育次長あいさつ

教育次長： 本日はお忙しい中、長野市図書館協議会にご出席をいただき感謝申し上げます。

長野図書館は昭和60年の開館で、今年で40年の節目を迎える。設備的にもいろいろ傷みが出ているが今後対応していきたい。記念の年となるので開館日の7月1日前後で40周年記念イベントを開催したいと考えている。本図書館の2階にアメリカのノーベル賞作家ウィリアムフォークナーの特設コーナーがあるが、昭和30年にアメリカ文学セミナーの講師として長野に10日間ほど滞在していたということがあり、所縁（ゆかり）のある図書館でもある。今年はフォークナーが来長して70年という節目の年にもあたり、6月には市内で学会が開催される予定である。国内外から研究者が訪れ、学会に参加された皆さんは当館にも足を運ばれるとのことなので、開館40周年と合わせた講演会などが企画できればと考えている。

南部図書館は、昨年12月に匿名の方から主に児童子供向けの本を1,000冊ほどご寄贈いただいた。市民新聞にも掲載されたが、「178文庫」と名前をつけて開架している。南部図書館にこれまで所蔵が無かったが、多くのお子さんから要望があった人気の作品も多数あるので、非常に貸し

出しが多く大変好評をいただいている。また、前回の図書館協議会でもお知らせした移動図書館車いづな3号について、昨年末に納車になり年明けから運行を開始している。これまで同様に地域の皆様に図書館を身近に感じていただけるよう努めて参りたい。

本日の協議事項は、令和6年度の主な事業実績及び令和7年度の事業計画についてご審議をお願いしたい。委員の皆様には、より市民の皆様に親しまれ利用しやすい長野市立図書館とするため様々な視点・観点からご意見をいただきたい。

(3) 委員長あいさつ

委員長：2年間委員長を務めさせていただき4回目になるが、ほぼ同じメンバーなので気心も知れており細かいところも気付くと思う。議題はいつものとおりだが、是非この機会にいろいろご意見を出していただきたい。スムーズな議事進行を行なえるよう委員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げる。

(4) 協議事項

ア 令和6年度事業報告について

〈事務局から「令和6年度の主な事業実績」により説明〉

委員：ご意見箱に寄せられた意見が結構あるようだが、どんな意見があったのか。

事務局：長野図書館の方が圧倒的に件数が多いが、少し厳しいご意見、「カウンターの対応が残念だった」、「駐車場が混みあっていて何とかならないか」、「こういったところが使いづらかった」、「検索用パソコンが汚れていた」等、細かいことについてもいただいている。できることはすぐに対応している。良い話としては、「丁寧に職員が本を案内してくれた」とか、図書館が用意した葉がとても使いやすかった」等である。当方が気づかないこともあるので活用させていただいている。

事務局：南部図書館は、「新しく綺麗になってよかった」、「長野図書館でやっている映画の上映会をやってほしい」「雑誌の新刊本を独占している人がいるのでなんとかしてほしい」「新聞の当日コピーができない理由は？」等で、個別に対応させていただいている。

委員：先日ふれあい福祉センターで本のリクエストしたところ1か月に1回しか来ないと言われた。リクエストしたものがいつ届くのか不安になり、直接図書館に行った方が良いのかと思っている。吉田のノルテながのにもたまに行くが、そちらの方がきめ細かに連絡が来る。ふれあい福祉センターの方はどうにかできないか。

事務局：まず、ふれあい福祉センターと吉田公民館（ノルテながの）は性質が違う。吉田公民館は「分室」という位置づけで、リクエストを受けて在庫があればすぐに本が届く。それに対して、ふれあい福祉センターは「市民文庫」という位置づけで、（巡回が）2か月に1回となっている。そこをご理解いただき、お急ぎであれば分室の吉田公民館に行っていたいただければと思う。性質が異なるため運用方法が変わるのでご理解いただきたい。

委員：デジ図書のID登録について、ろう学校の方は登録しているか。

事務局：ろう学校自体は、まとめて登録はしていない。「個人」についても把握していない。

委員長：細かい質問をいただいた。細かくいろいろなところで図書のサービスをしているので、全部同じように一律に出来ないのはよくわかる。私も2年間お付き合いさせてもらい、こういう

サービスについてわかってくると実際すごく細かいと思う。その割に反応は早い方ではないかと思う。確かに（巡回が）1か月に1回というのは気長な感じはするが。

委員：リクエスト本というのは2種類の理解があり、「今読みたいから図書館にある本をまわしてください」と「新しく欲しいから図書館で買ってください」と認識しているが、先ほど委員が言われたリクエスト本というのはどちらか。

委員：借りたい方です。

委員：新しく買ってくださという時は、どういう本といえば良いのか。

事務局：違いはそこまで無いが、予約本とリクエスト本は同じリクエスト用紙（リクエスト・予約申込書）を出していただければ、同じように購入の検討をする。所蔵していない場合は県内の図書館から借りるなどの検討をする。私どもの認識としては予約本の受取とリクエスト本の受取は、意味の違いは職員の中であるが、利用者にはそこまで求めているないので、どちらでも大丈夫である。

委員：私はリクエストをインターネットでやっているが、「新しく買ってください」という時は図書館に来て書類を書かなければいけないと思っている。

事務局：ネットでご予約いただけるものは所蔵しているものになるので、所蔵していないものに関しては、図書館に来てリクエストカードを書いていただく。

委員：以前にも申し上げたが、今若い人や私たちの年代でもマンガを読んでいる人たちが凄く多い。面白いと聞くが自分でわざわざ買うほどでもないし、図書館で借りることができればいいと思う。マンガは場所を取るのも無理なんだろうなどは思うが、考えていただいて、ゆくゆくはみんなが読めるようになればいいと思う。

委員長：買ってほしい本はリクエスト用紙を出せば一応検討してもらえるということか。今マンガのお話が出たが、マンガは図書館には置いてない。世の中に溢れているのはよく知っているが、図書館の姿勢としてはどうか。

事務局：選書基準ではマンガの購入はしないことになっているので積極的な購入はできない。ただ、ご寄贈いただくものがあり、それは受け入れて棚に並んでいる。先ほど申し上げた「178 文庫」は、学習漫画をご寄贈いただいたのでご利用いただいている。

委員長：今の世の中、マンガは昔に比べればかなり幅を利かせていて、勿論良い本もあるので気持ちもわかる。ついでに言うと、図書館は市民に図書を選べる機会を提供するということが、世の中は別のところにビジネスとして本を売っているのも、図書館にタダで読めるものがあるのかという意見もある。最近そういった意見は多いのか。これ以上入れられないとか、そういう方針があるのか。

事務局：漫画についてはいろいろなご意見もあるが、最終的には図書館も限られた場所になっているので、優先順位の問題だと思っている。長野図書館では漫画はスペースを取ったり、いろいろ管理上も大変なので、基本的には「手塚治虫さんのマンガの寄付」に限って取り扱いをしている。2階には手塚治虫さんの本がありご覧いただけるが、幅広くやってしまうと他の方を圧迫することになる。漫画を多く取り入れて、お子さんに来ていただくという図書館もあることは承知しているので、いろいろな本の中でどういう順番で買っていかということになると思う。委員長からもお話があったが、人気の本を何冊も買ってしまおうと・・・というところで、(いわゆる売っている)書店との競合の問題は古くて新しい問題になっていると思う。図書館がタダで本を

貸すから本屋がなくなってしまうのでは？というのは全国的な話でもある。(一部の)国会議員の中でもそんな議論が出ていて、一部制限を加えようかという話もあると聞いているが、確かに人気のある本は一気に借りても人気収まるとあっという間に余ってしまうということもあり、図書館として同じ本は3冊までというルールを決めて対応している。そうすると(今流行りの)「成瀬は天下を取りに行く」や賞を取った有名本などは、何百人という方の予約が入っているので、これを2週間ずつ回していくと自分のところにはいつ回って来るのかという話にはなるが、幅広く本を揃えるという部分と、利用者の皆さんのニーズに応えるという部分で、折り合いをつけながらやることになる。本屋さんを圧迫しないようにというような全国の流れのあることも承知はしている。

事務局：「デジとしょ信州」では、子供向け漫画としてコナンシリーズやスパイファミリー等が載っている。その利用回数は増えており、私どもに寄贈いただいた1,000冊余の半分は学習マンガである。日本の歴史とか世界の歴史とかコナンシリーズとかそういったものの方が人気がある。すでに棚の半分以上借りられている状況である。大人も「学び直しにいい」といって何冊も借りていくこともある。他の本との兼ね合いもあるので基本的には寄贈のみということで対応している。

委員長：ありがとうございます。いろいろまとめてお話を聞いたので、委員の方々の認識も深まったと思うが、選書基準、有害図書云々、はっきり文言では決められない部分があるのは想像できるので、購入云々とかで話題になることがあると思う。現状としてはそういう認識でいることがわかった。

委員：南部図書館で毎月「赤ちゃんのおはなし会」毎月第1水曜日に行っているということだが、赤ちゃんマッサージはとても良いことだと思う。私も子供が2人いて赤ちゃんマッサージをしたことがある。これは要望になるが、第1水曜日だけではなく月2回とかにしてもらえたら良いと思う。助産師さんと保健師さん等、講師の都合もあるかと思うが、できれば長野図書館でもやっていただけると良い。車で少しの距離とか、歩いて行ける距離にこういうところがあると図書館に行くきっかけにもなったり、本の貸し出し等にも繋がるとし、お母さん同士の交流という面でも、今人と人との繋がり等が希薄な時代だと思うので。時間は30分？7年度の計画案では4時まで開放と書いてあるが、もう少し時間を長くして、「じゃん・けん・ぽん」や「このゆびとまれ」のように一日中入れるとか。ロコミで「こういう遊びどころがある」と、ママたちの間で話が広がったり、お弁当持参でいけるとか、そんな感じだと引きこもりがちな冬とかもいいのではないかと思うので、検討していただけたらと思う。

事務局：「赤ちゃんのおはなし会」はボランティアで看護師さんの方に来ていただき、おはなし会の後も3時くらいまで相談を受けていただいている。開催するスペースの関係で月1回がギリギリの所である。来年はおはなし会を行う会場が、(会場の都合で)もっと減ってしまい苦慮している。南部図書館は良い場所がないというのが一番の問題だが、なんとかしたいと考えている。

事務局：長野図書館にもご要望いただいたので、場所とか時間帯とかいろいろな工夫の必要はあると思うが検討する。

委員長：赤ちゃんマッサージとは何か。

事務局：お母さんと赤ちゃんがふれあいながら(お腹やお尻、足をさわったりして)できる体操を看護師に教えていただく。

委員長：絵本の読み聞かせと繋がりがあるのか。

事務局：赤ちゃん向けの絵本をどうやって選ぶかお母さんが迷いがちなので、絵本の読みがたりをしつつ、絵本の紹介をして、マッサージも一緒にやっていただくというもの。

委員長：わかった。男の人はあまりこういうことを知らないのです。赤ちゃんマッサージという言い方自体は定着しているのか。

事務局：はい。

委員：前回ホームページの話をしたが、充実してきてなかなか良い。いろいろなことができるので、今後ともまた見たいと思うようにやっていただければ良い。楽しみにしている。

委員長：ホームページが充実したというお話だったが、何しろサービスが多いので少し見ないと慣れない。使うといろいろ慣れてくると思うのでかなり幅広いホームページだとは思う。

委員：学校という立場ということで、まず1つ目だが、イベントをたくさんやっていただいて多くの方が集まって、とても良いと思う。本校でも図書委員会というのがあり、図書館に来る人がなかなか増やせなかったので今度はイベントを企画して多くの人に来てもらいたい、と子供が言っていて、同じようなことを子供たちも考えるのだと思った。賞状を配るとかクイズを出すとか、そんなことを子供たちなりに工夫している。子供の数が少なく、たくさん来館するというのがそもそも無理だが、子供たちもそんなことを考えているので、図書館の方でも楽しくありがたいと思う。一市民として私は長野市の長野図書館も南部図書館もとても空間として居心地が良いと感じている。長野県内や県外の図書館にも行く機会があったが、何かとても落ち着くというか、図書館はやはり環境がとても大事だと思っている。南部図書館も入って入口の所にソファのところがあって、何か皆さんゆったり本を読まれていたりして、とても良い雰囲気だなと。長野図書館も天井が高くとても素敵な空間だなと思っている。常にそんな空間づくりを今後も行っていただければと思っている。最後に清野小学校が今年3月末で閉校になる。138年の歴史のある学校なので、いろいろな書物等もある。今、書物等の整理も始まっているが、図書館は書籍を保存とか保管とかするスペースが限られている。今お話もあったが、今はもう二度と手に入らない明治の時代のものとかが、多分、本校のような学校以外にもいろいろなところにあると思うが、そういうものをどうやってこう保管・保存していくのかということのを改めて今考えさせられている。見る人が見れば本当にこれはすばらしい二度と手に入らないものだが、それを一体誰がどこでどのように保管するのかということについて、現状を図書館の利用促進とともに記録を残すということに難しいなと自分自身が思っているが、ご検討いただければと思う。

委員長：138年。古いものがありそう。

事務局：長野図書館では、図書館のスペースが無いというのは当館も悩みで、(まず普通に販売されていた本も)40年前に買ったものを捨てないと新しい本が入らないというような状況もあり、泣く泣くりサイクル市に出しているということもあり、本を整理するというのは悩ましい。今の話の中で、特に郷土資料などは長野図書館や南部図書館で、必要なものは残していかなければいけないと思う。長野市の場合は公文書館という歴史的資料を集めるところがあるので、相談しながらやっていきたい。確かにそういったものは一度捨ててしまうと二度と出てこないのです。郷土資料を中心に大切に保管をして活用できればと思っている。ただスペースの関係もあるので、いろいろご相談をしながらだと思っている。他にもお話いただいたので若干触れさせていただくと、イベントについてはいろいろなものを考えさせていただいている。私どもも新しいイベントをや

ると大勢の方においでいただき、その帰りに図書館に寄っていただくとか、いろんなことができるので、イベントは工夫してやっていきたい。お子さんたちの発案もいろいろあり、今、上水内教育会さんの方で「わくわくリーダーズながの」の試みということでお子さんたちから図書館にご提案いただけるようなことが新年度はあるようなので、お子さんからどういうイベントや提案をいただけるかなと楽しみをしている。良いものがあれば採用をしながら、是非お子さんたちにも来ていただければと思っている。空間づくりについても、うちの図書館もなかなか良い図書館だと個人的には思っているが、40年という月日が経ったので若干古くなり、先ほどの話からなるが書架をどんどん増やしているの、ゆったりしたスペースは逆に縮まっていくという悩ましいところがずっと続いている。40年という節目なので、どこかのタイミングでまた新しく図書館をリニューアルする機会を考えていただければいいなというのはずっと思っている。ただ、そう簡単にはいかないの、計画の中で今の時代に合った、それでいて居心地の良い図書館ができればいいなというふうに思っている。

事務局：南部図書館では、篠ノ井の古い新聞、多分当館しかないというのがあり、触れると破損しそうなものをデジタルデータ化して、今後、市立博物館の方（長野デジタルミュージアム）にうまく載せられないかということで現在協議している。県立図書館の方でもデジタルアーカイブという形で、できるだけ古い資料をアーカイブ化して見れるようにするというのをやっている。ボロボロならば貸出しもできないので、見れる状態にどうやって持っていけばいいか苦慮している。あと、空間的には長野図書館の館内は「シーン」としている環境だが、南部図書館は児童書の割合が多いので、土日は子供たちが走り回ったりしている。南部図書館の売りは、児童書が充実しているということと、親子で借りに来ていただければという特徴があるので、それを生かしたということもある。イベント自体は時々失敗もする。例えば、今年の図書館まつりで講演とストレッチなどの体操を企画したが、結果的に参加者が少なかった。図書館と健康づくりを結びつけようと試みたが、それ（健康づくり）を目的に初めて図書館に来たという人がいたならそれで良かったという部分もある。改修して綺麗になった部分をPRする目的もあり、違う客層を狙ったら外れてしまったこともあるが、初めて来る人のきっかけづくりのイベントは今後とも考えていきたい。

委員長：今、行事、催し物等の話も広がっているが、最初に私が申し上げたとおり、実に多彩なイベントがあるので、これを回していくのは本当大変だと思うが、その中でまた新しいものやろうと考えているのはすごいと思う。なかなか予算をはじめ、潤沢ではないと思うが、図書館の役割としてはメインの部分かもしれない。

委員：図書館は以前からずっと催し物をやっていて、子供たちも興味があったが、たまたま娘が出産する年にコロナと重なり緊急事態宣言が出てしまいとても残念だった。でも、図書館ではそういう催し物をやっているんだなって、親子で読書を楽しむ機会をどうすればいいかを図書館に行って司書さんに聞いてそこで楽しんでもみようかなと。その後緊急事態宣言が解けて、図書館が開くようになって、そういったところからまたお世話になり、今保育園に通っているが、そんな子供と本の出会いという一番大切なことも図書館でやっていただけるのでよかったと思う。また、私はずっと篠ノ井に住んでおり、篠ノ井交流センターによく会議等で行くが、去年改修工事で休館の間も朝早くから図書館の貸出など（の業務を）を2階の所（臨時窓口）でやっていたり、休館していても別の場所（近くの交流センター）で貸出しができるという「いつも開いている」と

いう安心感があるということで、私の友人は「良かった」と言っていた。これからもそういうオープンな立場で運営していただければありがたいと思う。

事務局：本当に南部図書館をご利用いただきありがとうございます。昨年、この時期は「本当に（4月1日から）無事開館できるのか」という不安もあったが、無事開館できた。使い勝手は、トイレ等の設備は良くなったが、本体は変わっていないのでまだ手狭だが、皆さんの意見を聞きながら、今後とも蔵書を増やして使いやすいものにしていきたい。

委員長：委員から肯定的なご意見があった。それに関連して聞きたい。かなりいろいろな工夫をされて小さい頃から図書館に繋がるチャンスがたくさんあると思うが、ある程度少子化でもあるし、小さい頃からの図書館へ繋がる度合いというのはどうなのか。この10、20年30年考えた場合は、行きやすく繋がりがよくなっているのか。現場の方にそういう意見を聞いてみたいと思う。いろいろ工夫されているのは本当よくわかるので。実際子供たちがどのくらい繋がっているのか。

事務局：市の事業で、出産したご家族に本を選んでいただく「おひざで絵本」という事業があるが、それを通して本は楽しいということを知っていただければ良いと思う。昨年11月の県の図書館大会で角野栄子さんの講演があったが、角野さん曰く、「読み聞かせというのは皆さん大切だということはわかっている。家でもやっているが、ひとり読み、要は本を自分で選んで、それで、読む、ということ、そこを今後どうしていくのかということが必要なのでは」ということを言われた。「自分が選んだ本を読み切る、あるいは途中で飽きちゃった、そういった中で、本は面白いものだ、楽しいものだというふうに思える。その感動が次の本を取ってくるきっかけになる」とも言われた。読み聞かせ講座については、地域の中で読み聞かせを行う人を増やそうという取り組みはしているが、ひとり読みについてはどうしたら良いかということで今後の課題だと考えている。

委員：孫が小学校3年生で生まれたときからずっと本を読んできたはずだが、小学校に入った途端 YouTube を見ている。あんなに本を読んでいたのにどうして本から離れていくのか、すごく悲しかった。自分で本は借りてきて読んでいるようだが、とにかく楽しいのは、YouTube。そちらにハマっていて、知識も増えてきて検索も上手い。今の子供たちってこうなるのかなど。時代は変わったなと思う。1つお願いがあって、地域・家庭学びの課でブックスタートをやっていますね。7か月検診で本を配布しているが、本を選ぶ基準が皆さんわからないと思うので、本を読んでも渡していたはずだが、今やっていないようだ。お願いになるが、それを私の知り合いが活動し始めたので、何とかそちらの方で検討していただけないか。本を紹介しないといいただく方もわからないのではないかなと思う。それが基本で、本を読むということに繋がっていけばいいと思っているのでお願いしたい。今署名を集めていると思う。

委員長：はい。子供にどうやって本を読む習慣をつけさせるのかという良い話だと思う。何か関連してご意見はないか。

委員：うちも全く一緒。保育園時代からずっと読み聞かせをしてきたが、今は専ら YouTube になっている。うちの場合は、土日しかこういうものは見てはいけないというルールを最初から確立させたので、土日しかうちにあるものは使わないことになっている。学校から支給されたタブレットがあって、それはいろいろな検索をしても良いが、うちにあるものは、YouTube やゲームは土日だけというふうにした。私も読み聞かせを保育園時代は毎晩寝る前にベッドに3人並んで、私が真ん中で本を読むということをやっていたが、今は読書週間ぐらいしか本を読んでいる姿を見

ない。でも、知り合いの方の中学生のお子さんが図書館が大好きで毎週図書館に行っているとのことで、どうしたらそうなるのか、うちの子もどうしたらそうなったのだろうと思うところ。

委員：必ず本に戻ると思っている。私はおばあちゃんだから母屋に住んでいる。(孫は)お母さんのところでは絶対やらない。こっちに来てやる。私も最初は時間を決めたが、だんだん守らない。「プラス何時間」と言われて本当に困っている。でも親には「いいんだよやらせておけば」と言われた。本に戻ることを期待している。

委員長：ありがとうございます。この10年で本当にガラッと変わったと思う。

委員：小学校で朝の10分読書とかあったが、今はどうか。

委員：中学校でもやっていたが、学校による。今も朝やっている学校もあれば、学校もそれぞれの裁量でやられるようだ。学校の立場から見ていると、小学校は割と図書館の時間がある学校が多く、1週間に1時間程度図書館を利用する時間が国語の時間の中にあって、司書の先生がそこで読み聞かせをしたり本の紹介をしたりというのが多い学校が多い。中学校はなかなか難しいところがある。様子を見ていると、普段は本を読んでいるお子さんもいるが、そうでないお子さんでも図書館の時間でも読まないというお子さんは少ない。その場所に行って自分で本を手にとればやっぱり本は読んでいる。公共の図書館だと、そこにお家の方が連れてきていただいて、あれだけの児童書は普通の学校の図書館には無い。先ほど図書館で走り回っているという話もあったが、きっと嬉しいのだと思う。あれだけたくさん本があるのはすごく嬉しい。そういうところはちょっとお家の方の協力は必要かと。学校の図書館でできることと言えば、「本を読むのは楽しいな」という、もちろんYouTubeも楽しいのだが、本を読むのは楽しいなという経験を学校でもする。そうすると「学校の図書館にはない本が置いてある市立図書館に行ってみるか」となる。リクエストもできるようになっているし。そうすると近い図書館だったら自分で行けるようになるし、高校生ぐらいになったときにちょっと時間待ちで寄ろうということもできるようになる。今いろいろなことがあって、中学校は部活などがあってなかなか時間が無かったりするが、また時間ができて戻ってくると私としてはそう思っているので、学校としては図書館の時間を充実させることに取り組んでいる。

委員：朝読の件だが、私は今でも中学に朝読で行っており8年続いている。学校側の協力も必要だと思っている。こちらと学校側の思いが同じならきっと続くと思っている。

委員長：皆さんありがとうございます。なかなか本質的な良い話だと思う。習慣がついていけば、後から思い出してということは確かにあると思う。ただ習慣がつく前にYouTubeに行ってしまうと…。そういう意味で家庭とか地域は大事だと思う。学校に行ってもYouTubeとか覚えてしまうとなかなかこっち(本)に引き返すのは難しい。その習慣をどこかで見つける。それはお母さんであるし、特に小学校ぐらいまでだし、中学校ぐらいだと駄目だと思う。私もとくに子供が大きくなっているので大分昔の話なので、今はどうかと思って話を振ったが、貴重な話聞けて良かった。図書館の現場の方は是非こういう意見を参考に、いろいろまた対策を練っていただきたいと思う。時間かかりましたが、一応今年度の事業報告については一旦切ってよろしいか。

イ 令和7年度事業計画について

〈事務局から「令和7年度の主要事業計画(案)」により説明〉

委員：紙って今の若い人は見ない。SNSとかツイッターとかで発信した方が効果があると思う。

自分の娘を取り込んで（文庫の紹介を）SNS で発信してもらったら（利用者が）増えていく。よって、そっちの方が効果はあると思う。LINE でやったら見ていたという話がありましたが、まさにそれだと思う。

職務代理者：事業計画では図書資料の購入が両館とも 15,000 冊だが、令和 6 年度の図書資料の受入状況は長野図書館が 11,000 冊余で南部図書館が 13,000 冊余となっているが、図書資料は令和 6 年度は本来何冊程度か。

事務局：概ね 15,000 冊である。令和 6 年度の受入状況は途中経過の数字である。値段等によって若干冊数は変わってくる。

職務代理者：今年度の事業実績にも関わるが、今年度の事業実績で雑誌は長野図書館が 142 誌、南部図書館が 113 誌、南部の方は 2 誌減っているが、長野図書館の増減は。

事務局：週刊朝日はそれまで買っていたものが休刊になったので同じ状況。ただその減った分を補ったり、新しい雑誌を購入するので、雑誌の数は昨年より 1 誌減っている。

職務代理者：私の勤務先（長野高専）だと、雑誌を借りる人が徐々に少なくなってきたのと、これまで取っていた雑誌が廃刊になっているものもある。そんな中で、YouTube 等にも押されて雑誌の貸し出しや閲覧の状況は、今までと変わっていないのか。

事務局：相変わらず人気はあると思う。借りないが館内で閲覧している方はいるし、発売日（貸出開始日）には並ぶという状況は変わっていないので、月刊誌が季刊誌になっているものもたくさんあるが、図書館としてはなるべく買える限りは購入していきたいし、移行していくものがデジタル媒体になっていくのであれば、デジタル図書の方でも考えていかなければいけないと思っている。

職務代理者：雑誌に関しても来年度も今年度と同様ということか。確かに雑誌はデジタル移行しても、紙に慣れている人は紙の方が安いというのがあるのでお願いしたい。先ほど来皆様が言われているように図書館には大変充実したイベントがあつていいと思うが、その中で是非ビブリオバトルをやっていただきたい。最初どのくらい人が来るかわからないが、子供や大人同士の交流が生まれる。本を読んでいる人は 1 人で楽しんでいる人が多いので、そこでビブリオバトルを通して、読書仲間が増えていくという効果が非常に高いと思う。ビブリオバトル推進のボランティアの人グループなどもあるので、是非ご検討いただければと思う。

委員長：図書館関係ではビブリオバトルを行うことは無いのか。

事務局：図書館まつり自体が大人向けのイベントという認識なので、検討したことはあるが開催には至らなかった。今後また提案してみようかと思う。

委員長：高専では実際にやって盛り上がっているのか。

職務代理者：コロナ禍前からやっていて（一時中断していたが）コロナ後のここ 2 年でまた復活した。ビブリオバトルを推進している信州大学の卒業生の方がいて、その方に毎回話してもらい、それにならってやっている。回を重ねるごとに発表者の話し方などのレベルが上がっていて、交流も生まれ、他の大学からも人が来たりして、なかなか良いと思う。

委員：中学校の文化祭の中で、以前は意見発表会が大体定番だったが、それをビブリオバトルに変えている学校も幾つか出てきている。私も自分の小学校でやったことがあるが、1 年生から 6 年生まで生徒数が少ないため異年齢のグループで行ったが、6 年生が選ぶ本を 1 年生が話を聞くなど異年齢で楽しむことができる良さもある。ビブリオバトルの協会があり一応ルールが決まっ

ているが、学校では子供向けにルールを変えている。そのあたりがクリアできれば、図書館は年齢の高い方から子供たちまでいろいろな方が集まる場所であり、異年齢で学ぶことも大事だと学校でも考えているところなので、(ビブリオバトルの実施は) そういう意味での交流にはとても良いと思う。

ウ その他

委員長：最後に委員の皆様から何かご意見はいかがか。皆さんが意見を述べる最後のチャンスになる。

委員：催し物等とてもいろいろやられているが、ご意見箱とは別に、催し物に限ってアンケートは取っているか。

事務局：南部図書館ではイベント開催時にアンケートを実施し、いただいた意見は来年以降の参考にしている。

事務局：長野図書館では定番のおはなし会はその都度のアンケートではなく、インタビュー方式で話を聞いている。お楽しみ会や「親子で楽しむ映画上映会」といったような単発ものや新規で実施したものについては、感想、開催日、内容等についてアンケートを取って次の運営に生かすようにしている。

委員：そういう意見を参考に、また考えて実施していただきたい。

委員長：ここで議事を締めたい。多くの建設なご意見が出された。是非この意見を図書館の運営に反映していただきたい。これで協議事項を終了し、進行を事務局にお返しする。

(6) 閉 会

教育次長：本日は大変長時間にわたり熱心なご協議をいただき感謝申し上げます。様々なご提案をいただき、気持ちの中ではすぐに取り入れたいところだが、現実的には可能なものからどんどん取り入れていく形になるかと思う。委員の皆様がの任期が6月6日までということで、定例的な協議会は本日が最後になる。これで委員交代される方、次期もお世話になる方もいらっしゃると思うが、本協議会委員を退任されてもお気づきの点があれば声を聞かせていただきたい。最後になるが、これまでご尽力いただいた皆様に対し感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。